

医療福祉生協連主催「2011年度口と健康を考えるつどい」報告集
～2012年3月3・4日 東京・渋谷に23生協・98名が参加～

医療福祉生協連(新宿区百人町、高橋泰行会長理事)と歯科グループ委員会(中澤桂一郎委員長※歯科Gと略)主催の「『口と健康』を考えるつどい」が、3月3日、4日の両日、コーププラザ(渋谷区)において、北は山形から南は沖縄の23の医療福祉生協の組合員・歯科医師・歯科衛生士・技工士・看護師・事務職員など98名(含む組合員22名・歯科G委員・事務局)の参加で開催されました。

第1日目は、基調報告、記念講演、3つの指定報告、夕食交流会(ゲーム・クイズ・表彰など)、ポスターコンクール(投票)などを行ったほか、歯の健康関連グッズと書籍の展示もありました。第2日目は、4つのテーマ別分科会を行った後、全体会で各分科会の発表、つどいのまとめを行い、いつもは会えないたくさんの人たちと触れ合い、学び合い、意見を発表し、経験を交流した2日間でした。



▲熱心に講演や報告を聞く参加者の様子▲

<「2011年度口と健康を考えるつどい」の概要> ※キャプションなど敬称略

【第一日目】 基調報告・記念講演・指定報告・グッズとポスター展示・夕食交流会

■基調報告:中澤桂一郎医療福祉生協連理事・歯科グループ委員長・医師(要点)

※からだの健康は口の健康から。口の健康問題を抜きに医療生協運動は語れない。

歯ブラシ 1本で予防ができる。口をアーンと開ければ見える(実際は恥ずかしさでブラックボックス)組合員さんにとっては最高の保健予防活動の場である。

■記念講演:「健康は健口～口と健康の意外な関係」(要点のみ抜粋)

神戸常磐大学短期大学部 足立了平教授

※噛むことは脳を働かせ(脳への感覚センサー)・老化を抑制。「かめる口づくり」のために歯を残そう。歯の喪失はアルツハイマー病の危険因子の一つ。肺炎は怖い病気(高齢者の死因の第1位)。誤嚥性肺炎(口の中の汚れている人は肺炎になりやすい)。口腔ケアで肺炎を防げる。震災関連死—避難所の肺炎の成因(口腔ケアの不備・口内最近の増加)。災害時の歯科の役割(歯型で身元確認・被災者の健康確保・歯科医療の確保・肺炎の予防)。口腔保健の重要性(全身疾患の予防につながる)。



▲基調報告: 中澤桂一郎歯科グループ委員長



▲記念講演: 足立了平教授

■指定報告: 生協ひろしま新築移転～組合員と職員が協同して作ったけんこうまつり(要点)

広島中央保健生協 藤行智子歯科利用委員・田中正江建設委員

※新施設「健康プラザ」12月着工。2012年開設に向けて、「生協歯科ひろしま新築移転300人応援団」(施設構想・医療構想・出資金集め・新築移転を成功させる組織)・生協利用委員会の役割、生協ひろしま20周年記念けんこうまつり、うちの夢を語ろう会・ご当地アイドルを呼んだまつりに3000人超が参加。

■指定報告:「嚥下障害/口と全身疾患について」(要点のみ抜粋)

庄内医療生協 鶴岡リハビリテーション病院 福村直毅医師

※肺炎の元は嚥下障害で育つ(口腔汚染・咽頭汚染・唾液汚染)。肺炎の予防は「嚥下障害治療」と「口腔治療」の2つ。鶴岡では医科歯科連携で肺炎は激減した。地域全体で学習することが重要。「医科歯科連携」とは、壁を意識しないことこそ連携の第1歩だ。患者がいるところがすべからく治療の場である。※壁とは? ⇒病院の壁・職種の壁・専門科の壁などなど。



▲指定報告: 広島中央保健生協(藤行・田中)



▲指定報告: 庄内医療生協・福村医師

■「認知症サポート養成講座」: 手塚美恵子歯科グループ委員・新潟医療生協 (要点のみ)

※老いは平等にやってくる一疑似体験。認知症とは一物忘れとは違う、「病気」。受け取り方は人によって変わる(意外に相手は理解してくれない)。正しく伝える努力、真剣に聴くこと。脳いきいき班会、認知症予防フォローアップ講座、キャラバンメイト。歯科とのかかわり一話すことは最高のコミュニケーション。認知症を正しく理解する。※受講者全員にオレンジリボンが渡されました。



▲講師:手塚歯科 G 委員



▲受講しながら体操する参加者

■夕食交流会:いつもは会えない多くの皆さんと触れ合い交流しました(写真中心)

※チーム対抗戦:「歯科用語によるビンゴゲーム」・「医療福祉生協ウルトラ大クイズ」、交流賞(一番多く名刺を交換した人)、サプライズ賞(誕生日の人・最高齢参加者など)、ポスターコンクールの表彰(投票による)などを行った後、最後にマスゲームで大いに食べ・飲み・盛り上がりました。



▲夕食交流会の様子



▲乾杯(医療生協さいたまの丸山久美子理事)





▲22名の組合員参加者に感謝状を贈呈▲



▲交流賞(利根保健・金井)

▲誕生日で賞(同・関)

▲手塚委員のリードでマスゲーム



▲マスゲーム:「言うこと一緒やること反対」

▲「言うこと一緒 やること一緒」

【第二日目】 分科会・分科会報告・つどいのまとめ・ポスター展示・グッズ・書籍の展示

■テーマ別分科会 4分科会で実施

○第1分科会:テーマ「**歯科治療の現実**」 ※テキスト:全国保険医団体連合会のパンフを利用

※経済格差が歯の健康格差。中断患者の問題と入院患者の問題。在宅の口腔状態や歯科検診の事例報告。現在歯科医療が抱える問題。前歯がなくて就職できない、国保料が高くて払えない、キャンセルが多い、無料低額診療の必要性、技工士の状況(続けられない・海外技工の問題・子供の健康問題)



○第2分科会「認知症予防と口の健康」: 認知症サポーター養成講座を受講して討論。

報告:「地域での認知症予防～インストラクターがすすめる脳いきいき班会のひろがり」

神戸医療生協 当山恵子健康づくり委員

※脳いきいき班会とは？(地域住民がインストラクター・7か月続ける・毎日実践「脳いきいき5カ条」)。歯を残して認知症予防(歯の数が多く残っている方が 認知症の発症リスクを下げる)。歯でしっかり噛むことで、脳の神経細胞に良い刺激を与える。

報告:「おいしく食べる～5年後も筋力維持・マイヘルスプログラムの取り組み」

医療生協さいたま 朝霞和光支部 木村史子保健長

※マイヘルスプログラム—東洋大学との共同の取り組みの報告

報告:「おいしく食べる～入院治療で歯科との連携 栄養士の立場から」

医療生協さいたま 山下ひとみ管理栄養士

※<医療スタッフ側> ケアの時間に制約がある。

<患者さん側>・拒否・坐位の維持難しい ・嚥下障害・開閉口障害・出血傾向・意思疎通困難・認知症・拘縮 ・気管内挿管中・喀痰・血塊・乾燥 などなど



▲ 当山恵子さん



▲ 木村史子さん



▲ 山下ひとみさん

実践:「みんなでやってみよう！認知症予防レク・演歌準備体操」



○第3分科会「医科歯科介護連携～口腔ケア～」:病棟・施設・在宅での口腔ケア、各職種の活動
主旨説明:「医科歯科連携の概況～抜歯クリティカルパス作成を通じて～」

庄内医療生協・鶴岡リハビリテーション病院、福村直毅先生

※抜歯クリティカルパスの問題・主治医がいる患者の抜歯可否判断は?(医科医師か歯科医師か)
抜歯パスの作成(第1ステップ:抜歯可否判断表・第2ステップ:抜歯工程表⇒医科・歯科が同じ用紙に記入⇒歯科医師・医科医師・看護師が共同作成⇒運用)・目標の「責任」と「工程」の明確化を実現。・抜歯処置の可否判断は責任を伴う(医科・歯科共にリスクを確認することが大切)。今後の課題(医科歯科間で連携をとりさらなる改定・地域の医師全体との間でパス運用の模索・更なる医科歯科連携の模索)



報告(1):「歯科衛生士医療介護との連携～」

はるな医療生協 村川典子歯科衛生士(高崎中央病院)

※高崎中央病院と通所介護施設群における歯科衛生士の業務について(口腔に関する問題点)
通所介護施設における口腔昨日工場サービス・病棟での広い意味での口腔ケア。



▲報告する村川典子歯科衛生士



▲質問する参加者

報告(2):「歯科衛生士を含めた病院NST(摂食機能)回診の取り組み」

新潟医療生協 本田俊一言語聴覚士(木戸病院)

※(1)目的(①摂食・嚥下障害患者に対してより安全に経口摂取ができるように援助。②食べる楽しみの充足)⇒(2)活動(嚥下造影検査の導入・嚥下食の改良・啓蒙活動) (3)チームでの対応(歯科医師、歯科衛生士・言語聴覚士・病棟看護師で構成)⇒**成果**(歯科と連携して回診を行うことで、口腔ケアに対する意識が病院全体で高まった・より専門的な口腔ケアを行う体制の強化・摂食機能療法実施の件数増で診療報酬の増収に繋がった)⇒**課題**(「摂食機能回診」と「摂食機能療法」の定着・口腔ケアの取り組み・「手技」の統一と「質」の向上)



▲報告する本田俊一言語聴覚士



▲質問する参加者

報告(3):「食のリハビリテーション外来」

福島中央市民医療生協 原純一歯科医師(上松川診療所)

※(1)何をやるの?(摂食・嚥下障害の治療で誤嚥性肺炎を予防し、窒息を未然に防ぎ、より安全においしく口から食べるために専門的な評価と指導)。(2)どうやるの(診療所外来と訪問診療:内視鏡で、実際に物を飲み込む際の画像を撮影してテレビに映し、一人一人にあった安全な食べ方の指導)。(3)診療の流れ(①診察:全身状況・食事の現況・スクリーニング検査⇒②検査:嚥下内視鏡検査や造影検査⇒③評価/診断/指導:検査結果をもとに適切な栄養法の提案と説明と指導)



▲質問する参加者



▲報告・応答する原純一歯科医師

○第4分科会「歯磨きセミプロの活動」:実践講座、セミプロの活動、口の健康づくり委員会の取組み

報告(1):「セミプロ経験を介護で活かして」北医療生協 山本明美 セミプロ世話役

※セミプロ卒後講座の開講・セミプロ班かいメニュー(カムカムクッキング・笑顔美人・唾液腺マッサージ・パネルシアター・カメカメカルタ)・グループホームでの口腔ケア 課題(口は健康の入り口の普及)

報告(2):「歯科のない医療生協で取り組む「歯磨きサポーター活動」

長野医療生協 中澤瑠美子 歯磨きサポーター

※生活習慣病予防には「8つの健康習慣の実践が決めて」です。口腔ケアによる健康づくりの普及。歯磨きサポーターのできるまで(第1期「講座」・第2期「実技・実演」・第3期「養成講座」計20名誕生)・実態調査とまとめ(356名)。まとめの広報。活動源は「サポーター会議」。

実践・体験コーナー (1)染め出し歯磨きの実践 (2)班会メニューの実践 参加者全員

グループワーク:(3つのグループで発表と意見交換した後、結果をまとめました)



▲第4分科会の様子▲



▲グループワークの様子▲

■各分科会の発表:第1分科会～第4分科会(報告者名)



▲第1分科会 前田謙二(歯科G委員)



▲第2分科会(浦川恵子(歯科G委員))



▲第3分科会(後藤由紀子(歯科G委員))



▲第4分科会(角島宏子(歯科G委員))

■つどいのまとめ(来年度に向けて): 滝本博(医療福祉生協連(歯科G委員))

※(1)2012年度は口と健康を考えるつどいからさらに発展させて「健康づくり活動交流集会 in 神戸」との合同企画へ(2013年2月23-24日開催予定)。(2)歯磨きサポーターの活動状況や口と健康にかかわる行事などの調査をします。(3)歯の衛生週間でサポーター、インストラクターが活躍するように提起をします。



▲「まとめ」の報告をする滝本博歯科G委員



「まとめ」を聞く参加者たち

●ポスターコンクールと投票する参加者たち



▲ポスターコンクール:投票する参加者たち▲

●ポスターコンクール投票結果と表彰:第1位~第3位 第一位は尼崎医療生協歯科



▲第1位 尼崎医療生協歯科(右・梶本紗江・山本和江歯科衛生士)▲



▲第2位 医療生協さいたま・朝霞和光支部(右:鐘ヶ江マサ社保長)▲



▲第3位 香川医療生協平和歯科(右:秋友水音歯科技工士)▲



▲司会：富澤洪基(右)・後藤由紀子歯科G委員 ▲参加者たちは最初に交流用の名刺を作成しました
(情報と写真の出典：歯科グループ委員会まとめと事務局の取材・撮影より)

<問い合わせ先>

医療福祉生協連 会員支援部 電話：03-4334-1580